

1.3平方メートル、新施設は倍程度の規模を想定してを、史民俗資料館と周辺一帯を合わせた基本構想を再検討する。計画によると、同地区

を行う。今回の委託では、用水

径200mmの塩化ビニール管を更新する。導水路

力所を補修する。排水路工は延長3200mで組

間。概算事業費は約6億円。

に伴い、ダム本体を補強するほか、緊急放流工を

業界・行政ニユース

建設業福祉共済団

11月30日まで加入促進月間

建設共済保険普及へ

建設業福祉共済団（鈴木直和理事長）は、法定外労災補償制度「建設共済保険制度」の普及に向け、10月1日から11月30日までの2カ月間、建設共済加入促進月間を実施

する。月間中は「充実した制度で保険料が安い」を台言葉に各都道府県建設業協会などと連携し、説明会開催やポスターの掲示などで周知を図る。保険は、建設業労働者が業務上や通勤中の災害で死亡したり、重度の身体障害や傷病の状態になった場合、国の労災保険に上乗せして共済金を給付する制度。主契約となる「年間完成工事高契約」は、経営事項審査で加点評価（15点の加点を受けられる）こともあり、契約

全国防草ブロック工業会（愛知県豊田市、矢野明正会長）は、第2回東海北陸雑草研究会で防草技術を採用した製品や研究を発表した。写真。

防草技術を発表

東海北陸雑草研究会で

当日は、同工業会が全国展開している防草プロは、製品目地形状を変え

て発表し、同工業会の防草技術で、日本雑草学会の有志者をはじめ関心を集めた。座長を務めた吉岡俊人博士（福井県立大学生物資源学部教授）は「優れた着想の雑草管理方法であり今後、防草ブロック設置箇所の調査とデー



防草技術の発表の様子。左から矢野明正会長、吉岡俊人博士、松本浩一氏。

タを示すことが大切」と語り、矢野会長は「学会の有識者からの評価と」指導をいただき、当工業会が持つ防草技術の将来性を確信した。今後多くのデータを集め、工業会と会員の発展と社会貢献に向けたものづくりを目指し、技術研究を進めたい」と述べた。

せんねん村矢曾根がオープン 竣工式開き完成祝う

社会福祉法人せんねん村（愛知県西尾市、中澤仁理事長）が西尾市矢曾根町に建設を進めていた「せんねん村矢曾根」が1日、オープンした。9月26日に竣工式が開かれ、中根康浩衆議院議員や小島統市西尾副市長ら関係者約90人が出席し、完成を祝った。



また、2015年に開催される日本雑草学会本大会に向け、全国防草ブロック工業会の展示発表も計画しており、17年に京都で開催されるアジア太平洋地区国際学会への参加も視野に入れていく。

問い合わせ先は全国防草ブロック工業会事務局・井浦 電話0565(43)3700。

「のりフレッシュ工法」の普及と技術的支援を行っている。今回、発注者・設計者を問わず、日ごろから斜面防災に携わる技術者向けにこれからの維持管理に有効な面補修技術の講習を行う。

中部電気保安協会（本店・名古屋市中区）が提供する小出力太陽光発電設備の24時間体制保守監視サービス「サンポリス」

名古屋造園建設業協会（名造協、梅岡美喜男会長）は9月30日、名古屋市中区和区の名古屋公園で名古屋緑政土木局や昭和区役所とともに防災施設設置訓練を実施した。写真。川名公園での防災施設設置訓練は初めてで、地域住民や関係者ら約300人が参加し、いざという時の使用方法などについて学んだ。

この訓練は、名造協

名造協 防災施設設置訓練を行う



の呼び掛けにより実現したもので、昭和消防署や上下水道局瑞穂営業所が共催し、名古屋指定水道工事店協同組合や日本公園施設業協会中部支

地域住民ら約300人が参加

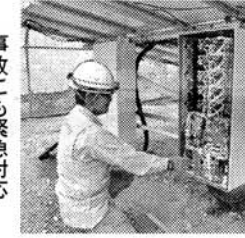
「いざという時に活用して、近隣の業者がいち早く駆け付け、地域の皆さまに役に立てるように」と意気込みに語った。また来賓代表として奥村文洋市

となり、梅岡会長は「名古屋市の公園を守る」という気持ちで大きく持

東海のリフレッシュ工法協会の講習会

会場はウインクあいち（名古屋市中村区名駅4ノ4ノ38）。時間は午後1時〜4時45分。参加費は無料。土木学会継続教育（CPD）プログラム認定1・3単位、建設コンサルタンツ協会継続

中部電気保安協会（本店・名古屋市中区）が提供する小出力太陽光発電設備の24時間体制保守監視サービス「サンポリス」



事故にも緊急対応